

創世記 1 : 27

ヨハネによる福音書 3 : 3~5

「神によって新しく」

(ハイデルベルク信仰問答 第一部 問 6~8)

※問答は「日々の祈り」をご覧ください。

【前奏】

【招詞】 ヨエル書 3 : 1

【祈祷】

【聖書】 創世記 1 : 27

ヨハネによる福音書 3 : 3~5

【説教】「神によって新しく」

<神が求めておられること>

わたしたちを創造し、命を与えて下さった神さまが、わたしたちに求めておられることがあります。それは、「神を愛すること」、そして「隣人を自分のように愛すること」です。

しかし、わたしたちはそのことを完全に行うことが出来ません。神さまの求められる愛に生きること、神さまが望まれる方向に歩んで行くことができず、道を外れ、神さまから遠く離れてしまっている。それが、わたしたち人間の罪の姿です。

そうしてわたしたちは、本来いるべき神さまの御許から遠ざかってしまった、悲惨な状態に陥っています。

…10月に入ってから、「ハイデルベルク信仰問答」による御言葉の説教がはじまりました。今は、第一部の「人間の悲惨さについて」の信仰問答を読んでおり、前回は、わたしたち人間は、罪によって悲惨な状態にある、ということを知られました。

わたしたちが、全く神さまの求めておられるように歩めないこと。前回の信仰問答は、そのことを、このような問いと答えで示していました。神さまがわたしたちに、神を愛しなさい、隣人を自分のように愛しなさい、と求めておられることに対して、

問5 あなたはこれらすべてのことを完全に行うことができますか。

答 できません。なぜなら、わたしは神と自分の隣人を憎む方へと、生まれつき心が傾いているからです。

わたしたちは、生まれつき、神と隣人を憎む方へと、心が傾いてしまっている。どう心がけても、頑張っても、努力しても、完全に神さまを愛することも、隣人を愛することも出来ない。信仰問答はそのように、わたしたちの罪と悲惨な状態を、はっきりと告げたのです。

### <責任転嫁>

さて、今日の信仰問答は、そのことを受けて、さらにわたしたちの罪がどのようなものを教えようとしています。

問6は、前回「わたしは神と自分の隣人を憎む方へと、生まれつき心が傾いている」といわれていたことを受けて、このように問うています。

問6 それでは、神は人をそのように邪悪で倒錯したものに、創造なさったのですか。

これは、とても素直な反応ではないでしょうか。わたしたちは神さまに対して罪を犯しており、悲惨な状態にある。それは、生まれつき、わたしたちの心が、神と隣人を憎む方へと傾いているからだ、前回語られていました。それで、こう反論するのです。

「わたしたちが、『生まれつき』神と隣人を憎むように傾いている？それなら、わたしをお造りになった神さまが、そのように造ったということじゃないでしょうか」と。

生まれつきであるなら、もう仕方がない。むしろ、そのように造った神さまが悪い。そう言って、自分が神さまを愛せないこと、隣人を愛せないことの罪を、神さまに責任転嫁しようとし出すのです。

だって「生まれつき」と言われたら、もう自分ではどうしようもないことのように思えます。それならわたしのせいではない。では、何が悪いのか。誰のせいなのか。

しかし、神さまがはじめから、ご自分を愛さないような、隣人を憎むような、悪いものを造ろうとなさるはずがありません。

神さまは、人を良いものとしてお造りになりました。神さまの御心は、わたしたちが神さまを愛して、隣人を愛して、親しい喜びの交わりの中に生きることだったのです。

### <良いもの、神のかたち>

問6の、神が人を、邪悪で倒錯したものに創造なさったのか？に対する、信仰問答の答えはこうです。

答 いいえ。むしろ神は人を良いものに、またご自分にかたどって、すなわち、まことの義と聖において創造なさいました。それは、人が自らの造り主なる神をただしく知り、心から愛し、永遠の幸いのうちを神と共に生き、そうして神をほめ歌い賛美するためでした。

そうです。神さまは、人を良いものに造られました。「ご自分にかたどって」。つまり、人間は、「神のかたち」に造られたのです。それは、頭や手や足がある、この肉体の形のことではありません。「神のかたち」とは、神さまに応答できるかたち。神さまと対話ができ、愛し合うことができ、関係を築くことができる存在として造られた、という意味です。

今日読まれた創世記1:27に、そのことが語られています。「神は人を自分のかたちに創造された。／神のかたちにこれを創造し／男と女に創造された。」

そして、問6の答えでは、ご自分にかたどって、つまりわたしたちが「神のかたち」に創造されたということを、言い換えて次のように言っています。

「ご自分にかたどって、すなわち、まことの義と聖において創造なさいました」。

わたしたちは、「まことの義と聖において創造」されたのだと。

「まことの義と聖」というと、少し難しく感じますが、「義」というのは、「正しい」という意味です。答えの少し後に、こうあります。「それは、人が自らの造り主なる神をただしく知り、心から愛し、永遠の幸いのうちを神と共に生き、そうして神をほめ歌い賛美するためでした。」

神さまの義、神さまの正しさとは、わたしたちが、自らの造り主なる神さまを正しく知る、ということです。神さまを正しく知る。この「知る」という言葉は、聖書においては、単なる知識のことではありません。「知る」とは、相手と深い愛の交わりを持つことです。

そうして人が、神さまを正しく知り、深く愛し、心から愛し、永遠の幸いのうちを神と共に生きる。神さまはそのようなものとして、ご自分の義において、わたしたちを創造なさったのです。

また、「まことの義と聖」の「聖」というのは、わたしたちが、聖なる神さまのものである、ということです。わたしたちは、聖なる神さまに属するものとして造られた。だから、神をほめ歌い、賛美する。神さまの民として、神さまを礼拝するのです。

神さまとの愛の関係の中で（義）、神さまのものとして（聖）、わたしたちは、神さまを愛し、永遠の幸いを神さまと共に生き、神さまをほめ歌い、賛美する存在として造られました。

それが、わたしたちのあるべき、幸いな姿でした。愛する神さまの御許が、わたしたちの居るべき場所でした。わたしたちは、そのように、良いものとして、神のかたちに造られた。神さまとの親しい、愛の交わりに生きるものとして造られたのです。

#### <原罪>

それでは、どうしてわたしたちは罪を犯すようになったのか。これには、はっきりとした答えがありません。

わたしたちは、答えを知りたく思います。原因が分かれば、それを解決すればよい。あるいは、どうしようもないことが原因なのであれば、もはや仕方がない、自分のせいではないと、自分を正当化することが出来ます。

しかし、なぜわたしたちが神さまを愛することが出来ないのか。隣人を愛することが出来ないのか。神さまの御言葉に従うことが出来ないのか。その理由や原因は、説明が出来ないのです。

ただ、はっきりしていることは、わたしたちが確かに、どうしようもなくこの罪に捕らえられているという現実です。

そしてこの罪は、神さまのせいにして、他のもののせいには出来ません。事実、このわたしが、神さまを愛さないのであり、隣人を愛することが出来ないのですから。

すべての人間は、例外なく罪の中にあります。そして、わたしたちの中には、どこを探しても、その罪から逃れることができるようなものはありません。聖書は、人間が確かに置かれている、このような罪の現実を、ただはっきり示そうとしているのです。

創世記の1章には、人間が良いものとして、神のかたちに創造されたことが語られ、その後3章では、アダムとエバの墮罪の物語が語られていきます。

エデンの園にある、たった一つだけ食べてはいけないといわれていた「善悪の知識の木」から、エバが蛇に唆されてその実をとって食べ、アダムもまた食べてしまうのです。

善悪の知識の木。つまり善悪を知るとは、善いこと、悪いことを判断すること。つまり、正しさを自分で決める、自分を正しさの基準にする、ということです。

人間は、神さまの義、神さまの正しさ、神さまとの正しい関係に生きようとして創造されました。そして、そのように生きることを、愛の交わりをもって共に生きることを、神さまは人間に期待し、望んでおられたのです。

しかし人は、神さまの正しさを捨て去り、それよりも、自分の正しさに生きたいと願ったのです。神さまに従うよりも、自分の心の思いに従いたいと願ったのです。

この、アダムとエバの神さまに対する不従順は、わたしたちすべての人間の罪の姿を映し出しているのです。

信仰問答の間7はこうなっています。

問7 それでは、人のこのような腐敗した性質は、何に由来するのですか。

答 わたしたちの始祖アダムとエバの、楽園における墮落と不従順からです。

それで、わたしたちの本性はこのように毒され、わたしたちは皆、罪のうちに生まれてきて生まれてくるのです。

わたしたちの腐敗した性質は、始祖アダムとエバの、楽園における墮落と不従順から来ている、と言います。ここでまたわたしたちは、それなら、わたしの罪の原因は、アダムとエバにあるのであって、やはり、わたしが悪いのではないんじゃないか。そうやって、また責任転嫁をしようとするかも知れません。

あるいは、そんな一番はじめの人間の罪が、どうして今のわたしに関係があるのか。アダムとエバの罪のせいで、どうしてわたしも罪人になるのか。そう感じるかも知れません。

しかし、始祖アダムとエバのために、わたしたちが皆、罪のうちに生まれてくる、という表現は、すべての人間が、たった一人の例外もなく、この墮落と不従順の罪に捕らわれているのだ、ということを書き表しているのです。

今はもう、そのような表現はしなくなったのですが、かつては「罪の遺伝」などという言い方がされたこともありました。それは、遺伝と言えるほどに、わたしの本性に確実に罪が根付いていると認めざるを得ない、という意味だったのです。

説明はできない。なぜ罪を犯すのか分からない。でも、神さまに従っていない現実がある。神さまを愛せない現実がある。隣人を愛せない現実がある。確かに、そのような罪の現実の中に、わたしがいる。ハイデルベルク信仰問答は、そのことをはっきりと示し、罪の責任は、神さまにではなく、わたしたちにある、ということ、明確にしているのです。

#### <全的墮落>

そして、わたしたちがどれほど罪に捕らわれてしまっているか。その程度がどれほどなのかを、次の問8が示しています。

問8 それでは、どのような善に対してもまったく無能で、あらゆる悪に傾いているというほどに、わたしたちは墮落しているのですか。

答 そうです。わたしたちが神の霊によって再生されないかぎりには。

…わたしたちはどこかで、そんなに罪に捕らわれていると言っても、自分の中には良心だってある。良いこともする。自分で罪から離れようとする事だって、罪を犯さないように努力することだって、出来るのではないか。

そんな一抹の可能性を、自分の中に見出だしたいと思うのです。

しかし、ハイデルベルク信仰問答は、ここでわたしたちに、とどめを刺します。わたしたちは、善に対して全く無能で、あらゆる悪に傾いているというほどに、墮落しているのだと。

ちょっと気分が悪くなるかも知れません。ここまで無能とか、悪とか、墮落とか言われるのは、正直受け入れ難いことに違いありません。

でも大切なのは、わたしたちが、ここまで墮落しているゆえに、もはや自分で自分を救うことが出来ない、ということを知ることなのです。自分の中に、救いの根拠は全くない、ということなのです。

良いことをしたり、努力したりすることが、意味がないとか、悪いとか言っているのではありません。良いことが出来るのにそれをしないことは、もっともっと悪いことでしょう。

しかし、わたしたちの為す良いことなどは、このわたしの罪を覆えるようなものではなく。罪に対して、わたしたちは何も出来ず、徹底的に無力だ、ということなのです。

#### <神の霊によって>

このことをはっきりとさせた上で、だからこそ、そんなわたしたちが救いへと至る道はこれしかない、と問8の答えは示すのです。

「わたしたちが神の霊によって再生されないかぎりには」。

そうです。わたしたちが罪から解放され、壊れた神のかたちを回復し、再び神さまと共に生きる者となるためには、神さまの霊によって新しくされるしか道がないのです。神さまによってこそ、わたしたちは新しくされ、罪から解放され、救われることが出来ます。

わたしたちの救いは、ただひたすら神さまの御業によって、ただひたすら神さまの恵みによって、与えられます。そもそも本来、わたしたちは造られた時から、神さまから恵みをいただいて生きるものなのです。

救いは、自分の能力や、良い行ないや、清廉潔白さや、立派さ、そのようなものによって得られるものではありません。わたしたちはもともと、自分で自分を立たせられるもの、自分で自分を救えるものは、何も持っていないのです。

結局、自分の力で救いに到達できると考えるなら、やはりわたしたちは神さまの方を向くことをせず、自分の内側ばかりを見つめることになります。神さまの御声を聞くのではなく、自分の声に耳を傾けることになります。それでは、罪の深みにはまるばかりです。

何をもってしても、わたしたちの深い罪の前では、何の役にも立たないのです。

わたしたちは、どうしようもない罪の中にいます。ですから、ここから、目を上げなければなりません。外からの助けを、求めなければなりません。

そしてすべては、神さまから来るのです。わたしたちは、自分を救うことも、人を救うことも出来ません。でも、神さまにはお出来になります。

救いの恵みは神さまの御手から、手渡されます。わたしたちは、神さまの御前に出て、その恵みを受け取ることしか出来ません。

でも、そのように、わたしたちが神さまの方に向き直って、御声に耳を傾け、手を伸ばして、ただ救いの恵みを受け取ることこそ、神さまは望んで下さっているのです。

今日読まれたヨハネによる福音書の3章で、イエスさまはこう言われました。「はっきり言うておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない」、「だれでも水と霊によって生まれなければ、神の国に入ることは出来ない」。

罪に捕らわれたわたしたち救って下さるのは、わたしたちの罪をすべて背負うためにこの世に来て下さった、神の御子イエスさまです。

イエスさまは、わたしたち人間の、このどうしようもない罪を、すべてご自分の背に負って下さり、十字架に架かって、ご自分の命を贖いのための犠牲として下さいました。

この、救い主であるイエスさまの命によって、罪を贖っていただくことでしか、わたしたちは自分の罪から解放されることは出来ないのです。

そしてイエスさまは、十字架の死から復活し、確かにわたしたちの罪の贖いを成し遂げて下さったことを示して下さいました。そして、わたしたちのために、神さまと共に生きるための、永遠の命と復活を獲得して下さいました。

復活のイエスさまは、弟子たちに息を吹きかけ、「聖霊を受けなさい」と言われました。イエスさまが成し遂げて下さった救いの恵みは、聖霊によってわたしたちのものになります。

聖霊を受けたわたしたちは、イエスさまの十字架の死において、罪のわたしも共に死にま

す。そして、イエスさまの復活に与って、神さまの御許で生きる、新しい命を生き始めます。

わたしたちは、イエスさまが救いの御業によって、そして神の霊を受けることによって、再び、新しく、生きることが出来るのです。あの、神さまのかたちに造られた、良いものとして。神さまとの正しい、愛の関係に生きるものとして。聖なる神さまのものとして。神さまを礼拝し、ほめ歌い、賛美する者として、新しく生きることが出来るのです。

そうして、新しくされたわたしたちは、神さまを愛することを望み、隣人を自分のように愛することを願い、神さまに向かって生きようとする者に、変えられていきます。御言葉を喜び、従う者へと変えられていきます。

ただ、神さまの恵みによって。ただ、神さまに新しくされることによって。どうしようもない罪に捕らわれている、すべての人間に、このわたしたちに、そのような唯一の、しかし絶対的な救いの道が、神さまによって、拓かれています。

### 【お祈り】

天の父なる神さま

どうしようもない罪に捕らわれているわたしたちを、お赦し下さい。神さまを愛することができず、隣人を愛することが出来ず、自分のことばかり考え、あなたに従うことの出来ないわたしたちを、お赦し下さい。

しかし、神さまはわたしたちが罪を赦され、新しく、再び良いものとして、神さまのものとして、生きる道を、イエスさまによって与えて下さいました。そして、聖霊なる神さまが、わたしたちをその救いに与らせて下さり、罪を赦された者として、新しく生きる者として下さいます。

わたしたちは、自分の罪を認め、ただ神さまの恵みに寄り縋って、救いを受け取ることが出来ますように。そして、神さまを愛し、隣人を愛する者として生きることを、祈り求める者となることが出来ますように。

このお祈りを、イエスさまの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讚美歌】 4 7 5 「あめなるよろこび」

【信仰告白】 使徒信条

【献金】

【主の祈り】

【讚美歌】 2 9 「天のみ民も」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。アーメン